

## 九州地域における地域支援者と拠点病院・行政の連携、相互理解の推進

研究分担者

南 留美 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

共同研究者

首藤美奈子 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

大里 文誉 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

田邊 瑛美 福岡県 HIV 派遣ソーシャルワーカー

### 研究要旨

HIV 陽性者の高齢化により、療養支援の課題は深刻になっている。本研究は、福岡県における HIV 陽性者の支援経験を有する医療機関や介護福祉サービス事業所（以下、地域支援者）と拠点病院の連携、相互理解の推進のための HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制構築を目的とする。

今年度は医師会や行政の職員と面談し HIV 医療の現状報告および PLWH 受け入れのための協力を依頼した。地域支援者の連携強化のための「第2回 HIV サポーター連携カンファレンス」（ハイブリッド形式で開催）では、意見交換会を開催し顔の見える連携を構築することが出来た。また今年度は、拠点病院と職能団体や行政、地域支援者、当事者団体等の関係者が話し合う場として「第1回福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議」を開催し、会の目的、今後の方針について説明を行った。

HIV 陽性者が安心して利用できる「地域包括ケアシステム」の実現のためには地域における HIV 陽性者に対する理解とともに行政を含めた関係機関の連携が重要である。地域医療・地域社会の問題として、拠点病院だけでなく、行政や職能団体、当事者支援団体が手を携え、水平展開していきたいと考えている。

### A. 研究目的

HIV 陽性者の長期療養に伴い、慢性期医療体制の構築、地域における医療介護連携の必要性がより一層強まっている。これまでもブロック拠点病院（九州医療センター）および拠点病院を中心に二次病院、療養施設、介護施設に対し患者受け入れ促進を目的として研修を行ってきた。その結果、受け入れは少しずつ増えてはいるものの、実際には様々な要因から未だに受け入れ拒否が続いている状況である。この受け入れ拒否の問題は、九州各県で起こっており「地域包括ケアシステム構築」において障害となっている。本研究は、HIV 陽性者が取り残されない地域包括ケアシステムの実現に向けて「福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク構想」を掲げている。ま

ず福岡県をモデルケースとして、医療介護福祉専門職や各事業所に向けた HIV の理解の促進、地域支援者と拠点病院の連携、相互理解の推進のための HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制構築を目的とする。

### B. 研究方法

#### 1) 医療介護福祉専門職や各事業所に向けた HIV の啓発

福岡地域の支援施設や職能団体に加え、今年度は、県医師会や行政（福岡県、福岡市、久留米市）の職員と面談し HIV 医療の現状報告および HIV 陽性者受け入れのための協力を依頼する。また、長期療養において重要となってくる疾患の専門病院を訪問し

連携をスムーズにするための助言をいただく。

## 2) HIV 陽性者の地域支援者間連携

地域支援者は HIV への差別・偏見や風評被害を背景として、孤立した支援を行っている。

地域支援者、当事者団体、拠点病院が集まり、HIV に関する最新情報の提供や支援者同士の意見交換会を開催し顔の見える連携を構築する。

## 3) 福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議

医療介護福祉関係の職能団体やエイズ治療拠点病院、行政及び当事者支援団体、地域支援者の代表者が会し、HIV 陽性者の療養支援等に関する課題解決に向けた協議を行う。具体的には、以下のビジョン（①医療介護福祉専門職や各事業所に向けた HIV の理解の促進、②協力機関ネットワークの構築、③地域支援者間連携・スキルアップの場の提供）の実現に向けた進捗管理を行う。

## C. 研究結果

### 1) 医療介護福祉施設や各事業所への HIV 啓発

今年度は行政（福岡市、久留米市）、福岡県医師会、透析医会、医師会病院・在宅医療介護連携拠点センター（糸島）、精神科専門病院2施設を医師、MSW で訪問してそれぞれ代表者や担当者と面談し HIV の基礎知識、HIV 陽性者の動向や傾向、支援における課題等説明し理解いただいた。また、啓発への協力、ネットワークへの参加を依頼した。各団体が開催する研修や学会（福岡県介護福祉士会令和5年度定時社員総会：基調講演、福岡県透析会との共催企画：みんなで HIV/AIDS を UP DATE する会）において HIV の理解促進のための機会を得ることができた。

福岡県透析会との共催企画では現地参加20名、オンライン参加112名であった。当院の医師、MSW、HIV 陽性者受け入れ経験のある透析施設病棟の医師が講演を行った。研修後のアンケート（回答数36）では、参加者の75%（27名）が HIV 陽性患者の受け入れ経験がなかった。受け入れ経験のある回答者11名中の8名が「今後も受け入れ可能」、残り3名も「状況により受け入れ可能」であった。受け入れ経験のない回答者のうち89%（24名）が、「今後 HIV 陽性者の透析を担当することが可能」と回答、一方、11%が「受け入れ困難」と回答した。その理由として「風評被害」「他の医療スタッフの理解が得られない」「曝露事故時の対応が分からない」「急変時のバックアップ体制が得られるのか不安」等が挙げられた。また「透析医療における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（五

訂版）」については回答者の34%が「施設内に常備している」と答えたが、44%がガイドライン内に「HIV 感染予防」の項目があることを知らなかった。透析患者受け入れ促進のために必要なものとして、過半数が、「HIV 感染者の透析に関する研修会の開催」「拠点病院による針刺し事故時の対応」「コンサルテーションも含めた拠点病院によるバックアップ体制」と回答した。専門領域においては、「HIV 感染症」の基礎知識だけでなく、その専門分野と HIV 感染の関わりに特化した、より具体的な講演、研修を行うことが効果的であると考えられた。

### 2) HIV 陽性者の地域支援者の連携強化

地域支援者の横の連携、薬害被害者の受け入れ促進、地域支援者と拠点病院との相互理解、連携の強化のために、今年度は「第2回福岡県 HIV サポーター連携カンファレンス」をハイブリッド形式で開催した（図1）。25事業所（訪問看護、訪問薬剤、ケアマネ、入所施設、就労支援、拠点病院、協力病院）から計37名が参加した。前半は「HIV 脳症」に焦点を当てて講演および症例提示（同一症例を拠点病院、受け入れ病院、受け入れ施設からそれぞれ提示）を行った（図2）。後半は意見交換会にて「顔の見える連携作り」を行った。

カンファレンス終了後のアンケート（n=30）（図3）では、今回の研修が「HIV に関する情報のアップデート」（n=19）「仲間づくり」（n=14）「拠点病院との連携強化」（n=16）「地域支援者との連携強化」（n=14）に役立ったと考えており、改めて「正しい最新情報の発信」が重要性和ともに支援者間連携を目的とした研修のニーズがあることが分かった。また、「困ったときの相談窓口の明確化」（n=14）が役立つと回答しており HIV 陽性者の受け入れ促進に際し、病院の相談窓口の明確化が求められていることが分かった。これらの取り組みを行う機関としては30名中18名が「行政機関」、23名がエイズ拠点病院を挙げていた。行政機関と拠点病院が協力し、地域啓発に取り組むことが望ましいと思われる。

### 3) 福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議（図4）

ネットワーク会議開催に際し「福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議 設置要綱」を策定した。それを基に昨年より協力を依頼していた各職能団体、拠点病院等、関係機関にネットワーク会議に参加可能な委員を推薦いただいた。「第1回福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議」には、行政機関（福岡県保健医療介護部 がん感染症疾病対策課

感染症対策係、福岡市保健医療局健康医療部 保健予防課、北九州市保健福祉局感染症医療政策課、久留米市保健所保健予防課、福岡県 HIV 派遣カウンセラー事業)、九州ブロック拠点病院(九州医療センター)の医師、MSW、福岡県中核拠点病院(産業医科大学)の医師、コーディネーターナース、薬剤師、臨床心理士、福岡県拠点病院(九州大学、福岡大学、久留米大学、飯塚病院、聖マリア病院)の医師、MSW、各職能団体(公益社団法人福岡県医師会、公益社団法人福岡県介護支援専門員協会、一般社団法人福岡県医療ソーシャルワーカー協会、公益社団法人福岡県社会福祉士会、一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会、公益社団法人福岡県介護福祉士会)の代表、当事者支援団体(社会福祉法人はばたき福祉事業団九州支部事務局、特定非営利活動法人ネットワーク医療と人権、notAlone Fukuoka HIV 陽性者交流会)の代表、地域支援者代表(訪問看護師ステーションラポールほのぼの)の看護師、総勢34名の委員が参加した。初回の開催であったため、委員の紹介、本会議設置の主旨と目的、上記ビジョンの説明、今後の方針、予定について説明した。具体的には、令和6年度は行政や職能団体の法定研修・地区研修等での啓発活動、事後アンケートによる実態調査、委員の個別ヒアリングによる意見抽出を行い、課題を把握する。会議では拠点病院だけでなく、職能団体等受け入れる立場からの意見を盛り込んだ課題の検証・今後の計画立案を行う予定である。最後に厚労省・エイズ対策推進室室長から挨拶をいただいた。

## D. 考察

「福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク構想」の実現のためには、以下の3つのステップが必要と考える。1つは、医療・介護・福祉施設への「HIV 感染症」「血友病」に対する正しい知識の普及・啓発である。九州医療センターでは、HIV 陽性者の受け入れ促進のために受け入れ施設を中心に個別に研修を行ってきた。その結果、受け入れ施設数も徐々に増加しある程度の成果を得ている。しかし一方、受け入れ拒否の事例も持続している。昨年より、各職能団体への訪問、面会を開始し、今年度はそれに加え、行政機関との面会も行った。昨年から通して、地域支援者における HIV に対する理解が未だ不十分であることを実感した。今後、「職能団体」の協力により、さらに広範囲の地域支援者に HIV の啓発を行っていく予定である。

2つ目のステップは、HIV 陽性者を地域で支援している地域支援者のサポートである。昨年、地域支

援者支援のために開催した「第1回 HIV サポーター連携カンファレンス」において、本カンファレンスによる地域支援者間の連携、地域支援者と拠点病院の連携が期待されていることが分かった。今年度は、ハイブリッド形式で開催でき、支援者同士および拠点病院との連携強化につながったと考えている。

3つ目は、HIV 陽性者の療養支援の問題を地域医療・地域社会全体の問題として、拠点病院だけでなく、行政や職能団体、当事者支援団体・地域支援者が協力し、水平展開していくことである。その取りまとめの組織として「福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク会議」を設置した。関係者が手を携え、各職種や地域の事情を踏まえながら、HIV 陽性者の受け入れ協力機関の拡充、サービスの向上を目指した会議を作り上げていきたい。

## E. 結論

HIV 陽性者が安心して利用できる「地域包括ケアシステム」の実現のためには地域における HIV 陽性者に対する理解とともに行政を含めた関係諸機関の連携が重要である。福岡における HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制の構築法は1つのモデルとなり得る。



HIV陽性者支援の輪を一緒に作っていただけませんか？



## 第2回福岡県HIVサポーター 連携カンファレンスのご案内

HIV陽性の患者さん・利用者さんを支援する中で、悩みや不安を抱えておられないか？  
例えば、退院・在宅療養支援や緊急時の対応、高齢化する利用者さんの療養の場所など、  
「HIVだからこそ」の連携や支援の難しさを実感された方もいらっしゃるかもしれません。

このカンファレンスは実際にHIV陽性者を支援されている事業所の方から、「HIVの方を支援している方と相談できる、繋がれる場所がほしい」という声を元に、事業所の皆様の横の繋がりを作ることで、福岡県内のエイズ治療拠点病院のHIV担当ソーシャルワーカー等との顔の見える関係を作ることを目的として企画したものです。同封のニュースレターに簡単ではありますが、第1回カンファレンスの報告を掲載しておりますので、ご一読ください。

ご多忙中恐縮ですが、是非ともご参加いただき、皆様のお声をお聞かせいただけますと幸いです。

- ◆日 時：令和5年9月29日（金）18:30～20:30（18:15～受付）
- ◆対 象：HIV陽性者の支援経験のある医療・介護・福祉従事者
- ◆方 法：対面とオンライン（Microsoft Teams）によるハイブリット形式
- ◆場 所：九州医療センター 外来棟 4階研修室
- ◆申 込：9月13日（水）までに申し込みフォームにアクセスするか、裏面の申込書をFAXしていただきますようお願いいたします。  
※詳細は裏面をご参照ください。

### ◆内 容

#### 1. 講演

「AIDSの知識を深める～HIV脳症を中心に～（仮）」

九州医療センター AIDS/HIV総合治療センター部長 南 留美

「脳症の患者の支援事例」

急性期病院、二次病院、在宅の方からの事例報告

#### 2. カンファレンス（参加者自己紹介・活動報告・検討事項）

◎対面の方は終了後、名刺交換会の時間を設けております。



九州医療センター  
AIDS/HIV総合治療センター  
キャラクター キクゾー

### 【お問い合わせ】

九州医療センターAIDS/HIV総合治療センター

TEL：092-852-0700（内線：2501）

担当：首藤、田邊

mail：shuto.minako.sh@mail.hosp.go.jp

令和5年度厚生労働省行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）

## ① HIV拠点病院の支援報告

### まとめ

- ・ HIV治療中断後にHIV脳症を発症した患者の退院支援を行った
- ・ **転院調整**：受け入れ前に安心して受け入れてもらえるよう、出前研修やHIV薬の請求方法等を事前に確認した。
- ・ **受け入れ決定後**：正しい情報の提供やHIV特有な医療情報・病態など多岐にわたる情報を共有した。
- ・ **転院後**：退院支援のサポートや緊急時の対応、受け入れ病院からの課題（薬・生保等）を提案してもらい、協働しサポートすることができた。
- ・ 入院中に経済基盤を整理出来れば、家族の不安・負担を軽減できたことは反省点

## ② 受け入れ病院からの支援報告

### HIV患者の支援における課題

若年の患者も多い  
＝ある程度、長く付き合っていく病気

- 「療養先・生活の場の確保」と「適切な制度の活用」

(病態、身体状況、認知面等に応じて)

- 将来どうなっていくのだろう?!

- ▶ 医学的な知識不足

HIV脳症 × 老化 / HIV脳症 × 認知面の改善 or 認知症の発症 /

HIV脳症 × 他の疾患

- ▶ 家族力の低下 (家族の高齢化)

- ▶ 介護保険サービスと障害サービスの連携・移行

医学的な知識の向上  
(=将来を見通した  
支援が可能)

患者の身体的  
・心理的・社会的な  
状況に応じた継続支援  
(支援をつなく)

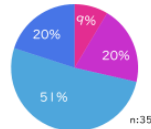
ACP・ALPの  
視点での関わり  
(患者の意思を理解しあう)  
(患者の意思をつなく)

## ③ 受け入れ施設からの支援報告

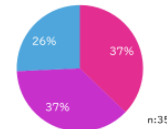
### 施設関係スタッフ(看護・介護スタッフ)の意識

- 1) HIV陽性者の利用者さんに関わること(療養・生活支援)に不安はありますか?

- 入居受入前 (HIV研修前)

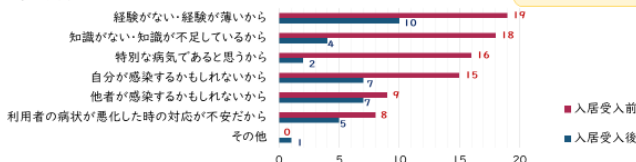


- 入居受入後



■ 不安はない ■ あまり不安はない ■ やや不安 ■ とても不安

- 2) 不安な理由はどんなことですか?



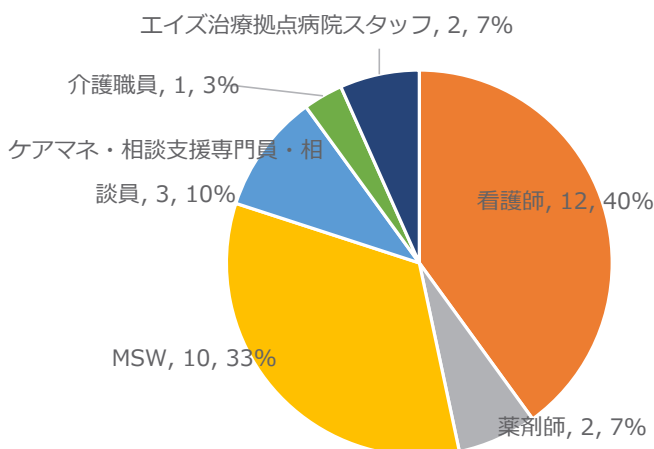
【介護スタッフ】  
約55%が入居受入後「不安」は軽減している  
(不安が増大した介護スタッフ：0%)

図 2

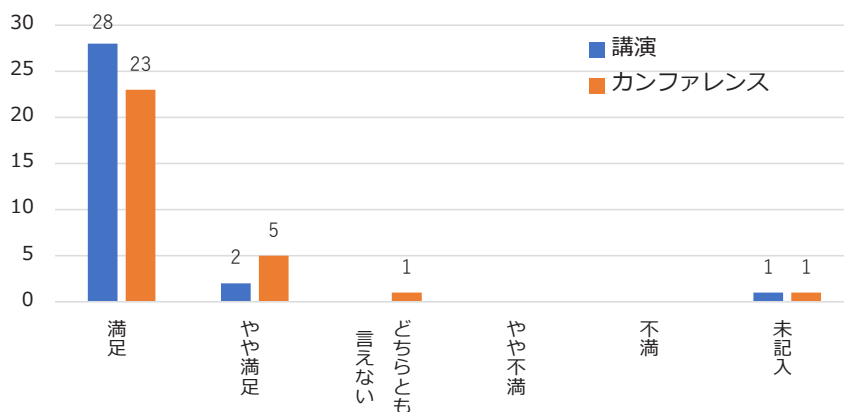
- ① 国立病院機構九州医療センター MSW 大里文誉 発表スライドより  
② 医療法人社団誠仁会 夫婦石病院 MSW 山本友美 発表スライドより  
② 医療法人社団誠仁会 住宅型有料老人ホーム花 看護師 高村美保 発表スライドより

## 事後アンケート結果

### ■ アンケート（下記）回答職種（n=30）



### ■ 研修満足度（n=30）



### ■ 今回の研修がどのようなことに役立ちそうですか？（n=30、複数選択）

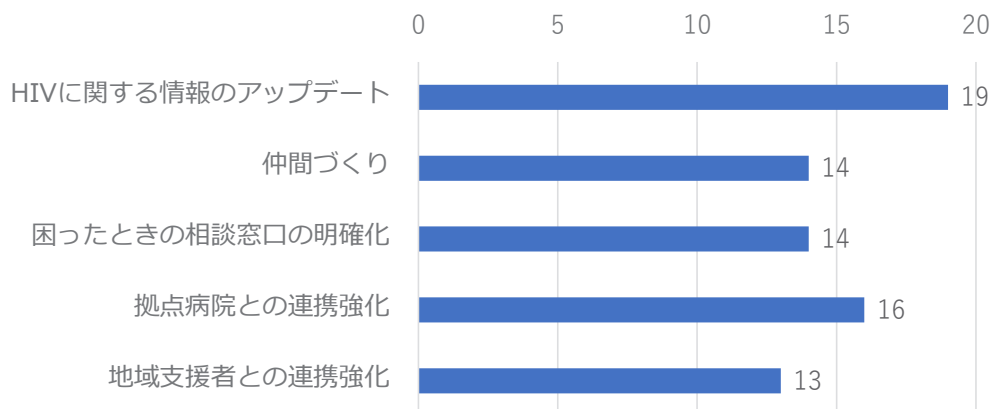


図3

## 福岡県HIV陽性者地域支援ネットワーク構築

HIV陽性者が地域の中で安心して生活できる、地域支援者も安心して支援できる「地域包括ケアシステム」の実現に向けて、拠点病院と職能団体や行政、支援実務経験者、当事者団体等の関係者が手を携え、HIV陽性者の受け入れ協力機関の拡充、サービスの向上を目指す。

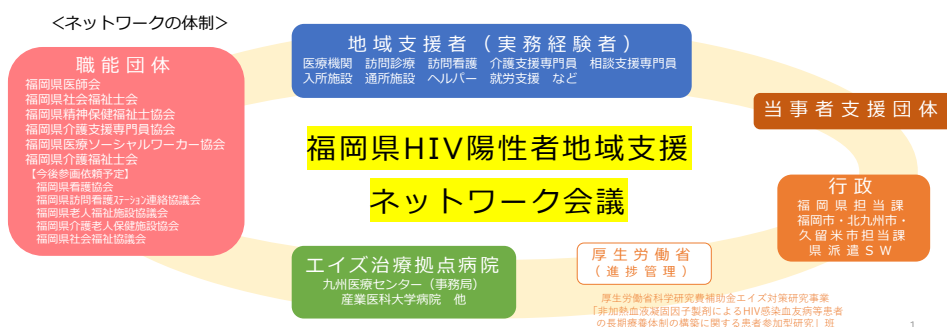


図4

## F. 健康危険情報

なし

## G 研究発表

### 1. 論文発表

- Uno S, Gatanaga H, Hayashida T, Imahashi M, Minami R, Koga M, Samukawa S, Watanabe D, Fujii T, Tateyama M, Nakamura H, Matsushita S, Yoshino Y, Endo T, Horiba M, Taniguchi T, Moro H, Igari H, Yoshida S, Teshima T, Nakajima H, Nishizawa M, Yokomaku Y, Iwatani Y, Hachiya A, Kato S, Hasegawa N, Yoshimura K, Sugiura W, Kikuchi T. Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism: a multicentre retrospective study. J Antimicrob Chemother. 2023 Oct 19;dkad319. doi: 10.1093/jac/dkad319. Online ahead of print.PMID: 37856677
- Toyoda M, Tan TS, Motozono C, Barabona G, Yonekawa A, Shimono N, Minami R, Nagasaki Y, Miyashita Y, Oshiumi H, Nakamura K, Matsushita S, Kuwata T, Ueno T. Evaluation of Neutralizing Activity against Omicron Subvariants in BA.5 Breakthrough Infection and Three-Dose Vaccination Using a Novel Chemiluminescence-Based, Virus-Mediated Cytopathic Assay. Microbiol Spectr. 2023 Aug 17;11(4):e0066023. doi: 10.1128/spectrum.00660-23. Epub 2023 Jun 13.PMID: 37310218
- Otani M, Shiino T, Hachiya A, Gatanaga H, Watanabe D, Minami R, Nishizawa M, Teshima

T, Yoshida S, Ito T, Hayashida T, Koga M, Nagashima M, Sadamasu K, Kondo M, Kato S, Uno S, Taniguchi T, Igari H, Samukawa S, Nakajima H, Yoshino Y, Horiba M, Moro H, Watanabe T, Imahashi M, Yokomaku Y, Mori H, Fujii T, Takada K, Nakamura A, Nakamura H, Tateyama M, Matsushita S, Yoshimura K, Sugiura W, Matano T, Kikuchi T. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J Int AIDS Soc. 2023 May;26(5):e26086. doi: 10.1002/jia2.26086.PMID: 37221951

### 学会発表

- Assessment of the effectiveness, safety and tolerability of bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in routine clinical practice: 12-month results of the retrospective patients in the BICSTaR Japan study. Rumi Minami, Dai Watanabe, Katsuji Teruya, Yoshiyuki Yokomaku, Tomoyuki Endo, Yasuko Watanabe, Andrea Marongiu, Tetsuya Tanikawa, Marion Heinzkill, Takuma Shirasaka, Shinichi Oka, APACC 2023, 8-10 June, Singapore
- A cluster of phylogenetically close strains to the highly virulent variant of HIV-1 subtype B circulating in the Netherlands was detected in Japan. Machiko Otani, Mayumi Imahashi, Rumi Minami, Atsuko Hachiya, Masakazu Matsuda, Masako Nishizawa, Teiichiro Shiino, Tetsuro Matano, Yoshiyuki Yokomaku, Yasumasa Iwatani, Tadashi Kikuchi, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. IAS

- 2023 Conference on HIV Science. July 23 - 26, 2023; Brisbane, Australia.
- 3 Trends in prevalence of pretreatment drug-resistance in Japan: a comparison between the pre- and post- second-generation INSTI era. Tadashi Kikuchi, Mayumi Imahashi, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Shigeru Yoshida, Tsunefusa Hayashida, Lucky Ronald Runtuwene, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, on behalf of the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. INTERNATIONAL WORKSHOP ON HIV DRUG RESISTANCE AND TREATMENT STRATEGIES, 20 to 22 September 20-23, 2023, Cape Town, South Africa.
  - 4 HIV 感染症と Premature aging, HIV 感染者のメタボリックリスクと ART 選択 南 留美、第 37 回日本エイズ学会総会 共催シンポジウム 2023 年 12 月 3-5 日
  - 5 当院における非 AIDS 指標悪性腫瘍 21 例の後方視的検討 中嶋恵理子、高濱宗一郎、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南 留美、山本政弘、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 6 血液製剤院外処方への取り組みと薬薬連携による患者サポートの整備 松永真実、合原嘉寿、山口泰弘、藤瀬陽子、大橋那央、橋本雅司、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南 留美、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 7 カポテグラビル+リルピブリンの使用経験と POMS による精神神経系有害事象の評価 合原嘉寿、山口泰弘、松永真実、橋本雅司、木下理沙、曾我真千恵、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南 留美、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 8 福岡県内の STI 関連病院におけるアンケートの調査 高濱宗一郎、中嶋恵理子、山地由恵、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南 留美、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 9 国内 HIV-1 伝播クラスタ動向 (SPHNCS 分析) 年報 -2022 年 椎野禎一郎、大谷眞智子、中村麻子、南 留美、今橋真弓、吉村和久、杉浦互、菊地正、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 10 ビルテグラビル・エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド (B/F/TAF) の日本人 HIV 陽性者 (PWH) に対する有効性と安全性: BICSTaRJapan24 ヶ月解析結果 照屋勝治、横幕能行、渡邊大、遠藤知之、南 留美、田口直、Rebecca Harrison, Andorea Marongiu, 白阪琢磨、岡慎一、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 11 HIV 陽性者の受け入れ経験を有する事業所のネットワークを作る取り組み「福岡県 HIV サポーター連携カンファレンス」実践報告 田邊瑛美、南留美、首藤美奈子、大里文誉、新野歩、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 12 終末期医療に移行した HIV 陽性者へのソーシャルワーク実践— 家族へ病名未告知立った際の療養支援— 大里文誉、首藤美奈子、南 留美、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 13 ドラビリンの長期使用に伴う影響調査 山口泰弘、合原嘉寿、藤田清香、松永真実、藤瀬陽子、大橋那央、橋本雅司、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南 留美、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 14 抗 HIV 薬変更に伴う赤血球数の変化について 南 留美、高濱宗一郎、中嶋恵理子、城崎真弓、長與由紀子、犬丸真司、山地由恵、合原嘉寿、小松真梨子、矢田亮子、山本政弘、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 15 2022 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、Lucky Runtuwene、椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、瀧永博之、岡 慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島英明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、松下修三、饒平名聖、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、吉村和久、杉浦 互、第 37 回日本エイズ学会総会、2023 年 12 月 3-5 日
  - 16 「HIV、エイズの基礎知識 ～医師の立場から～」 南 留美、福岡県介護学会 2023.3.11、福岡
  - 17 HIV 感染症における長期合併症～ Aging を中心に～ 南 留美、第 93 回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第 71 回日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会 2023 年 11 月 7 日、富山
- H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)**
1. 特許取得  
なし
  2. 実用新案登録  
なし
  3. その他  
なし